

平成二六年度 八幡生涯学習のむら講演録

ものや道具を通した
智恵と心の継承

本誌刊行にあたり

宮本常一資料保存研究協議会、平成 26 年度「竹大工」・「石工」に関する講演を行いました。本誌はその講演録となります。

竹大工の講演では、竹大工であり、作家・民俗研究家でもある稲垣尚友氏をお招きし、「竹に抱かれた日本の豊かさ」と題して、会場の質問に稲垣氏が答えるという形で展開しました。竹製品がまだ我々の身近にあった時代の話、現代の名工といわれた廣島一夫氏の紹介とともに、稲垣氏の経験を交えながら話していただきました。

竹製品がプラスチックに変わって久しくなりますが、ほんの数十年前までは、竹が私たちの生活に重要であったことを再認識します。氏の民俗学に関する教養に富んだ話は読み応えのあるものとなっています。

石工の話は、愛知大学教授 印南敏秀氏に「周防大島久賀での宮本先生との棚田調査」と題する講演をお願いしました。氏は宮本常一に師事し、様々なところで民俗調査をされています。久賀の棚田調査は、「久賀の諸職用具」が重要有形民俗文化財指定になった後、それらの調査報告書執筆のため行われたものです。

石の積み方も野面の石を積む方法から、割って形を整えて積む方法へ発達していったこと。棚田が古くから発達したことが築石技術を発達させ、久賀の人々を出稼ぎへと向かわせるようになったことなど興味深いものとなっています。

竹大工・石工とも、我々の生活が変化する中で数が少なくなってきました。竹籠製品や棚田百選などが近年再評価されてきているとはいえ、注目し保存継承していかなければ、衰退していくものと思います。久賀歴史民俗資料館にある、宮本常一の指導により昭和 47 年以降から集めた民具類も、いずれも失われつつある道具とってよかろうと思います。こうした伝統あるものの保存継承には、本誌を手にとっていただき皆さんに関心をもって、見守っていただくことが大切です。

八幡生涯学習のむらでは、今後もこうした伝統的なものの保存継承へ向けて活動していきます。

※ 約 30 部在庫があります。本書にご興味のある方は実費で販売しますので、下記にお問い合わせください。(なくなり次第販売終了しますのでご了承ください。)

Email : bz270361@bz04.plala.or.jp

T e l : 0820-72-2601

講演録の概要

講演録 「竹に抱かれた日本の豊かさ」より抜粋

- 廣島さんには用具としての器、用具としての竹細工が大切

会場 廣島さんは竹細工・民芸運動とか、そういう関係の方ですか？それとも、工芸作家として伝統工芸をご職業にされている方なのですか？

稲垣 籠屋さんです。要するに農具作りです。若い人がほれる一つの理由としては、ウナギを捕る筥（うけ）がありますね。日之影では「うなぎポップ」と言いますが、それを求めた人が花生けにしてしまうと、廣島さんは「あれは寂しいのう。土に返らないから」と言われる。

「土に返らないから」というのは象徴的な表現であって、うなぎポップはウナギが筥に入っていくとき、ウナギの体が最初に当たる箇所竹の微妙なバネ、それが軟らかいか硬いかで、ウナギが入りやすい、入りにくいがある。その工夫は大変なものです。そういう一つの技術の結晶が次に伝わっていかないというもどかしさを廣島さんは言っているわけです。そういうことで、彼はそれを花籠に使っても文句は言わないけれども「寂しいのう」という感想なんです。そして、彼はあくまでもウナギが捕れるように作っています。そういうものしか作っていないのです。 後略

講演 「周防大島久賀での宮本先生との棚田調査」より抜粋

- 宮本研究は久賀ではじまる

自治体が依頼して地域の歴史や文化を調査して出版した本を自治体史といいます。宮本先生が書いた最初の自治体史は『久賀町誌』です。昭和二九年の刊行ですから、約六〇年ぐらい前です。久賀歴史民俗資料館の前に、昭和三三年に国の重要有形民俗文化財に指定された熱気浴施設の石風呂があります。この石風呂は宮本先生によって発見され、日本で最初に文化財に指定された石風呂で、その後多くの石風呂が国指定や県指定となります。

・・・中略

久賀の諸職用具が国の重要有形民俗資料に指定されてすぐ、宮本先生が 調査団長となって報告書をつくりました。先生は「景観には人の意思と営みと、その足跡が刻まれている」と書かれています。最近、景観への関心が高まっていますが、はやくから先生は景観から地域の歴史を読みとけると考えていたのです。先生は棚田の景観に強い関心を持っていたので、私たち宮本グループは棚田の石積と石工の調査を二年間かけておこなったのです。宮本先生は、「石工をやるわ」とおっしゃった。現地調査のまとめ役だった私は、事前には石工のことを調べ、先生と一緒に石工を訪ねて聞いた話が、最初にご紹介した井戸の話です。

宮本先生の棚田調査の最終目的は、日本の国土開発でした。棚田は今は文化的景観としてとりあげられていますが、先生は棚田景観のなりたちの調査を調べたかったのです。そこで久賀では石積などの民俗技術を中心に考え、総合的に理解しようとしたのです。